■発行／桐生市役所　〒376 - 8501　桐生市織姫町1 - 1
☎0277 - 46 - 1111　ファクシミリ0277 - 43 - 1001

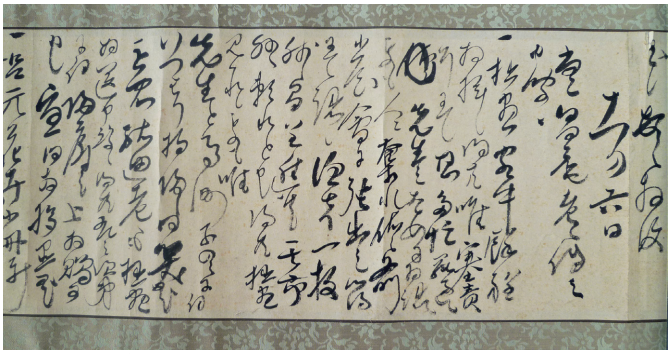
桐生市立図書館の所蔵資料から　第5回

岡田東塢宛　渡辺崋山書簡

蛮社の獄、鷹見泉石像。この2つの言葉から思い浮かぶ、桐生とゆかりある歴史上の人物は誰でしょう。

答えは渡辺崋山。江戸時代後期を代表する文人画家で、先に挙げた「鷹見泉石像」は、近世肖像画の最高傑作として知られ、国宝に指定されています。三河田原藩の家老を務める一方で、蘭学に通じたその学識を慕って、多くの幕臣や儒者が門下に集まりましたが、そのことが仇となり、幕府の守旧派により投獄され（蛮社の獄）、国許でのちっ居生活を強いられるなか、藩主に迷惑が及ぶことをはばかり、自刃した人物です。

その崋山が桐生にやってきたのは、天保2（1831）年10月12日です。以来、近辺の名所や文人たちを訪ね、翌月6日に桐生を出立しています。彼が来桐した目的は、主君の藩主三宅康直から家譜（系譜）を調べることを命じられ、藩祖三宅康貞が武蔵国瓶尻（現在の埼玉県熊谷市三ヶ尻）を旧領としていたことから、近在の地を含めての実地調査に赴いたものです。そのとう留先は桐生新町二丁目の絹商人岩本茂兵衛家でした。実は茂兵衛のもとへ妹茂登が嫁いでいる縁もあり、崋山は桐生を拠点に、周辺の文人・画人との交流を深め、また訪問先の風土や歴史地理、産業やまつりごとに至るまで事細かに観察し、その成果は「毛武游記」という本にまとめました。



先生（東塢）に画を贈ると書かれた書簡

「毛武游記」中には、崋山が出会った魅力的な人物が多数登場しますが、中でも丹南藩足利領五十部村（現在の栃木県足利市五十部町）の代官岡田東塢は、長崎や京都にも遊学した知識人で、瓶尻での調査の便宜を約束するなど、滞在中の崋山が最も頼りとした人物で、同書の10月21日の記述には、東塢に対する崋山の賛が書かれています。

今回紹介する史料は、崋山が桐生を出立するその日に、東塢に送った書簡です。この中で崋山は、東塢に誘われて遊行した書画会でのお礼や、今日、瓶尻に向け出立することを告げるとともに、東塢のために描いた画を他人に奪われたので、先の書画会に赴いた際に漁夫の画を1枚描き、どうにか他人の求めをかわして持ち帰れたので、これを進呈する旨が書かれています。この漁夫の画は所在が確認されていませんが、書簡のやり取りを通じ、両者の深い信頼関係を知ることができます。

▼「岡田東塢宛　渡辺崋山書簡」展示
期間＝10月3日（火）～31日（火）※10日（火）、月曜・祝日は休館
場所＝図書館1階

今月の表紙

9月2日（土）に桐生市藝術大使に任命された桐生市出身の画家、山口晃さんと亀山市長、キノピーの記念写真です。

キノピーの姿を近くで見た山口さんは、ユーモアのある動きで驚きを表現してくれました。

人口と世帯

（8月31日現在）

人口	114,157人	（−155人）
男	54,985人	（−77人）
女	59,172人	（−78人）
世帯	49,948世帯	（−18世帯）

（ ）内は前月比

今月の納税

市民税・県民税…第3期
国民健康保険税…第4期
10月31日（火）が納期限です

コンビニエンスストアや銀行などのペイジー対応ＡＴＭからも納付可能です。口座振替を利用している人は、預貯金残高の御確認をお願いします。

広告

■編集／総合政策部広報課（☎内線505）
■ホームページ　http://www.city.kiryu.lg.jp/